



COLORS FOREVER.

カイク塗料レスタウロ・ラズワ

《 施工手順書 》

1	下地準備	適用下地	● 自然石、コンクリート、セメントモルタル、ALCパネル、コンクリート・ブロック
		割れ・破損・浮き	● 防水処理、補修が完了、仕上げに支障の無い下地調整がなされている事
		不陸・目違い	● 塗材の希釈率、厚さ、色の種類等により許容可能な範囲に処理されている事
		色目違い (調整塗装)	● クリアカラー仕上げ（高度な希釈率）は下地が透視される為、下地は最良状態にする事。
			破損していた部分の希釈仕上げは補修部位が塗材を多量に吸収します。補修した部位が他所と比べるとまだら模様となる為、全体を補修し均一な吸収率の下地状態を確保して下さい
		下地の強度	● 十分な付着性確保の為、塗材以上の強度と剛性を有している事
		下地の吸湿性	注 下地に吸湿性がある事（塗装箇所の一部に水を塗布して吸収度合いを確認下さい）
			● 下地が鏡面状態で吸湿性が確保できない場合、紙やすり・サンダー等で目荒らしを行い吸湿性を確保する
不純物の付着	● 下地は乾燥し、じんあい、油脂、サビなど付着力を低下させる残留物が無い事		
	● 旧塗膜等、もろく不安定な箇所は取り除いて下さい		
養生	● 最短で12時間後に上塗りが可能です（23°Cおよび相対湿度50%）		
	● 高めの湿度、塗膜の厚さ、または、低い外気温では乾燥が遅くなります		

2	施工	下塗り (1回目)	工法	● 刷毛塗り、吹付け
			● 刷毛塗装の場合、常に濡れた刷毛目の端を維持して、はけめの重なりが自然になるようご注意ください。重なって、濃くなってしまった場合はその部分を乾いたローラーで余分な塗材を取り除いて下さい	
			● 外装用途では耐候性を確保する為、2回塗りをします	
塗材の攪拌	● クリアカラー仕上げの場合は、レスタウロの希釈剤をで下地を固定する事でクリアカラー仕上げ塗装は1回だけでOKになります			
● 塗材の顔料等が容器の底に沈殿する為、作業前に充分攪拌する事 また、塗装中も頻りに攪拌して下さい				

SGM株式会社



COLORS FOREVER.

カйм塗料レスタウロ・ラズワ

《 施工手順書 》

2	施 工	下塗り (1回目)	希釈率	● 希釈液で主材を希釈する。1:1 ~ 1:20 の範囲を推奨。 (注：上水等の希釈は不可、専用希釈材のみ)
			計 量	● ハカリで主材と希釈材重量を正確に計量し目的希釈率にする (希釈見本参照)
		仕上げ塗り (2回目)	2回目塗り	● 下塗りと同じ工法で塗装。パターンがある場合パターンずれが無いか確認する事 ● 事前の試塗り見本と比較して、模様、色彩、仕上厚に差異の有無を確認する

工 程	材 料	調 合 (希釈比率)	所要量 (L/m ²)	塗回数	間隔時間 (h)		
					工程内	工程間	最終養生
主材つぶし塗り 又は 希釈混合材塗り	レスタウロ・ラズワ、希釈剤	設計指定	約0.125	1	2時間<	12時間	12時間
	レスタウロ・ラズワ、希釈剤		約0.125	1			

※マスキングを行い、塗装面以外に付着した場合は
即座にふき取ってください。

※施工前に試塗りにより判断下さい

3	施 工 条 件	気 温	● 5℃～30℃で塗装作業を行う事
		天 候	● 直射日光下、太陽で加熱状態の下地、雨天、降雨可能性の場合は中止
		乾燥時間	● 塗装と塗装の乾燥時間は最低でも12時間

4	所 要 量	2回塗りの場合	● 目安量・約0.25L/m ² (下地吸収率による為、試し塗りで決定下さい)
---	-------	---------	--

5	用 具 取 扱 い	作業中	● 作業休憩時間中も用具は塗料や水に浸漬して下さい
		作業終了後	● 刷毛、ローラーは使用后直ぐに水で洗浄して下さい

6	作 業 環 境	換 気	● 狭所、密閉された作業環境では確実に「換気」を行って下さい
---	---------	-----	--------------------------------

7	塗 材 保 管	場 所 / 期 限	● 使用後は容器をしっかり密封し、冷所で霜がかからない場所で約12か月です
			● 直射日光・熱にご注意下さい

8	廃 棄	規制準拠	● 容器の廃棄処分の際は行政上規制に準拠し如何なる残滓物も無き事
---	-----	------	----------------------------------

SGM株式会社